

2014 Autumn

しぶさわけんぽ

No. 195

p 2～3 定期健康診断(巡回人間ドック健康診断)について
p14～15 平成25年度 決算をお知らせします/新組合会議員が決定しました

重症化を予防する！
脂質異常症



eGFR クレアチニン (参考基準値) 男性: 0.61 ~ 1.04 女性: 0.47 ~ 0.79

腎機能区分	結果	解説	
G1	正常又は高値 (eGFR ≥ 90)	腎機能は正常または高値と推定されます ただし、蛋白尿2+以上の場合、尿潜血と蛋白が共に+の場合は腎臓専門医の受診が必要な場合があります。	減塩に 留意する
G2	正常又は軽度低下 (90 > eGFR ≥ 60)	腎機能は正常または軽度低下と推定されます ただし、蛋白尿2+以上の場合、尿潜血と蛋白が共に+の場合は腎臓専門医の受診が必要な場合があります。	
G3a	軽度～中等度低下 (60 > eGFR ≥ 45)	腎機能は軽度～中等度低下と推定されます CKDが疑われますので医療機関に相談しましょう。蛋白尿2+以上の場合、尿潜血と蛋白が共に+の場合は、腎臓専門医への受診が必要です。	生活習慣の 改善が必要
G3b	中等度低下～高度低下 (45 > eGFR ≥ 30)	腎機能は中等度～高度低下と推定されます CKDが強く疑われますので速やかに腎臓専門医を受診してください。	専門医による 管理治療が必要
G4	高度低下 (30 > eGFR ≥ 15)	腎機能は高度低下と推定されます CKDで様々な異常を合併している可能性が高いので速やかに腎臓専門医を受診してください。	
G5	末期腎不全 (15 > eGFR)	末期腎不全と推定されます 透析治療直前の状態ですので速やかに腎臓専門医を受診してください。	

今年の澁澤グループの皆様のeGFRの検査結果 (労働衛生協会実施分のみ)

eGFR	年齢	年齢					総計	割合
		21-30	31-40	41-50	51-60	61-70		
G1	eGFR ≥ 90	70	95	57	21	7	250	25.0%
G2	90 > eGFR ≥ 60	62	159	265	151	62	699	69.7%
G3a	60 > eGFR ≥ 45		1	8	18	14	41	4.1%
G3b	45 > eGFR ≥ 30				4	3	7	0.7%
G4	30 > eGFR ≥ 15				1	1	2	0.2%
G5	15 > eGFR				1	2	3	0.3%
総計		132	255	330	196	89	1002	100.0%

(人数)

ご自分の健康診断結果表をご覧ください、どのレベルにご自分が該当するのをご確認ください。

- G1~2の方は今のところ異常はありませんが、体重や血圧が標準になるようコントロールは必要です。
- G3aの方は下記①~⑤の生活習慣は避けるよう気をつけましょう。加えて血圧・体重のコントロールも大切です。①喫煙②過度の飲酒③運動不足④不規則な生活⑤塩分の摂りすぎ。
- G3b~G5に該当する方は医療機関での管理が必要ですので、必ず定期的に受診してください。

ご質問やご相談があれば気軽に健康相談室へいらしてください。

平成
26年度

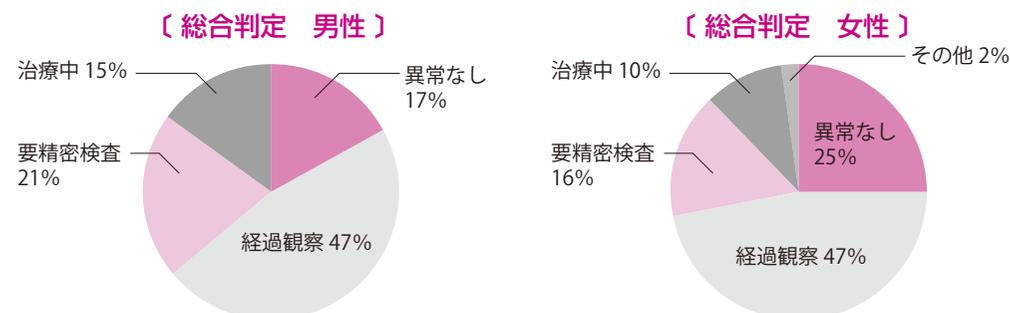
定期健康診断 (巡回人間ドック健康診断) について

今年も6月を中心に健康診断を実施し、無事に終了いたしました。皆さま、ご協力ありがとうございました。今回は、健康診断結果の概略と今年から実施しました新しい検査項目についてご説明いたします。

1. 定期健康診断受診者数

事業所名	澁澤倉庫	澁澤陸運	システム物流	その他	任意継続・家族	合計
受診者数	478	257	156	119	54	1064

2. 受診結果 (総合判定) ※総合判定は各自の健診実施項目の中の一つ大切な判定となります



昨年と比較すると男女ともに「経過観察」の方の割合が増加し、半数近くに上っています。「経過観察」とは医療機関を受診するまでではないが、生活習慣を改善する必要がある方という判定になります。「要精密検査」以外は「異常なし」と認識している方が多く見受けられますが、「経過観察」と判定された皆さまは、ぜひ、健康のために、今日から生活を見直してみましょう。自覚症状がない中での生活習慣の改善は難しいことですが、食事に留意する・運動をする・よい睡眠をとる・節酒・禁煙など、何でもよいので、自分の体にあったよい生活習慣を1つでも新たに始めてみませんか。「要精密検査」の方は昨年より減少しており、全体で192名でした。その内の22名はE判定で、専門医での治療が必要との診断ですので、E判定の方は早めに医療機関を受診するようにしてください。

☆健康診断時に検尿が実施できなかった方、あるいは正確に判定ができなかった方が38名います。医療機関を受診する機会があればできるだけ尿検査を受けて、異常がないことを確認してください。

3. 新しい検査項目 クレアチニン・eGFRについて

今回の健診から血液による腎臓機能検査を追加しました。これは、現在成人の8人に1人とも言われている慢性腎臓病(CKD)を早期に発見するための検査です。腎臓は機能が低下してもは自覚症状が現れにくく、発見が遅れると腎臓の機能はもとには戻りません。クレアチニンと共に結果表に記入してあったeGFRは、腎臓のろ過量を計算で推定したもので、腎臓機能の判定に必要な値となります。左ページで結果の見方を簡単に説明いたします。

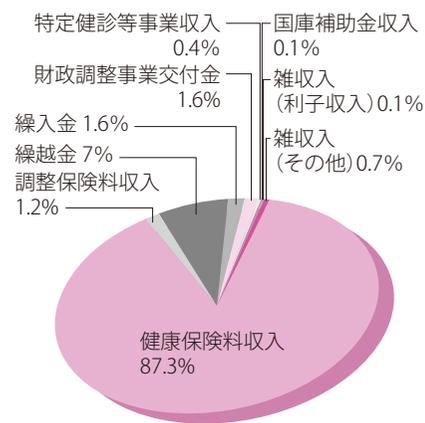
平成25年度 収入支出決算概要

一般勘定

◎収入

科目	平成25年度 決算額(千円)	平成24年度 決算額(千円)	前年度比	内容
健康保険料収入	531,688	499,064	32,624	法155条保険料
調整保険料収入	7,388	7,345	43	法附則2条3項調整保険料
繰越金	43,000	45,000	-2,000	前年度歳計剰余繰越金
繰入金	10,000	0	10,000	別途積立金からの繰入金
財政調整事業交付金	9,758	3,967	5,791	高額医療交付金
特定健診等事業収入	2,760	2,791	-31	特定健診の事業主受託料
国庫補助金収入	416	434	-18	特定健診等への国庫補助金
雑収入(利子収入)	229	218	11	財産から生じる利子
雑収入(その他)	3,911	3,689	222	法定定期健診の事業主受託料
収入合計	609,150	562,508	46,642	

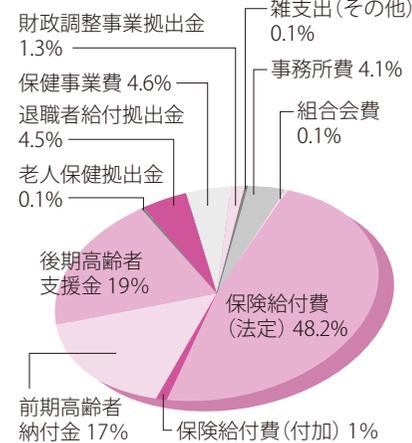
◎収入の部



◎支出

科目	平成25年度 決算額(千円)	平成24年度 決算額(千円)	前年度比	内容
事務所費	23,198	23,019	179	事業運営事務費
組合会費	256	253	3	組合会運営費
保険給付費(法定)	272,943	279,413	-6,470	所要財源率 48.19/1000
保険給付費(付加)	5,739	5,113	626	所要財源率 1.01/1000
前期高齢者納付金	95,625	44,184	51,441	所要財源率 16.89/1000
後期高齢者支援金	107,267	100,112	7,155	所要財源率 18.95/1000
老人保健拠出金	3	25	-22	
退職者給付拠出金	25,139	24,485	654	所要財源率 4.44/1000
保健事業費	25,674	24,805	869	所要財源率 4.53/1000
財政調整事業拠出金	7,361	7,329	32	法附則2条2項拠出金
雑支出(その他)	430	452	-22	健保連会費等
支出合計	563,635	509,190	54,445	

◎支出の部



決算残金	45,515	53,318	-7,803
経常収支	-17,179	4,347	-21,526

介護勘定

科目	平成25年度決算額(千円)	平成24年度決算額(千円)	前年度比
収入	57,153	52,676	4,477
支出	52,065	50,668	1,397
決算残金	5,088	2,008	3,080

新組合会議員が 決定しました

組合会議員の任期満了に伴い、平成26年6月30日付で新議員が選出され、また同年7月10日付で各役員が決定いたしましたので、お知らせいたします。

氏名	所属事業所	役職名
齋藤秀一	澁澤倉庫	理事長
川上芳夫	澁澤倉庫	常務理事
菅野康弘	澁澤倉庫	理事
江口 剛	澁澤倉庫	理事
佐藤 忍	澁澤ファシリティーズ	理事
白壁秀哉	澁澤陸運	理事

氏名	所属事業所	役職名
福岡邦雄	澁澤倉庫	監事
鈴木伯嗣	澁澤倉庫	監事
門澤秀樹	澁澤倉庫	議員
旗 浩志	澁澤倉庫	議員
大橋 武	澁澤倉庫	議員
金 慶一	澁澤倉庫	議員

氏名	所属事業所	役職名
木村 忠	澁澤陸運	議員
加藤義雄	澁澤陸運	議員
林 雄二	澁澤陸運	議員
池内 健	システム物流	議員

平成
25年度

決算をお知らせします

去る7月10日、東京都江東区永代の澁澤シティプレイス永代の会議室にて開催された第107回組合会において、平成25年度決算が承認され決定しました。

一般勘定

25年度

収入合計 ▶ 609,151千円 (前年度比 8.29%増)

支出合計 ▶ 563,635千円 (前年度比 10.69%増)

収支差引額 ▶ 45,515千円 ▶ 繰越金 10,000千円 次年度へ繰越
財政調整事業繰越金 28千円 //
別途積立金 35,487千円 積立

〈経常収支 ▲17,179千円〉

当健康保険組合の一般勘定の25年度経常収支は、▲17,179千円の赤字決算となりました。その主な原因は、高齢者医療制度に対する「支援金・納付金」の合計が前年度比59,228千円と大幅に増額されたためです。この「支援金・納付金」は団塊世代の前期高齢者(65歳)到達により、今後も著しく増加することが伝えられております。したがって、26年度も前年度に引き続き保険料率の引き上げを実施いたしました。財政の立て直しを図ることは極めて難しいと見込まれます。

介護勘定

25年度

収入合計 ▶ 57,153千円 (前年度比8.50%増)

支出合計 ▶ 52,065千円 (前年度比2.76%増)

収支差引額 ▶ 5,088千円 ▶ 介護準備金に積立

介護勘定は保険料率を15.0 / 1,000にアップしたことに加え、標準報酬月額が増額となった結果、保険料収入は前年度比5,477千円増加しました。これに対して納付金の1人当たり単価がアップしたため、介護納付金は前年度比1,397千円増の52,065千円となりました。なお、納付金支払いの資金用に介護準備金4,000千円の繰入れを行った結果、決算残金は5,088千円となりました。

